

第7回 建設業経理士検定試験 1級財務分析

[第1問]

問1

構成比率分析とは、全体に対する部分の割合をあらわす比率に基づいて分析する手法をいう。その特徴は、各項目が百分率という共通尺度によって示されるところにある。したがって、この分析からは、財務諸表を構成する各要素の相互関係を明確に把握することができるようになる。貸借対照表の構成比率分析の方法は、百分率貸借対照表を作成して行う。百分率貸借対照表においては、総資産あるいは総資本を100%とすることが基点となり、その他の諸項目はそれに対する割合であらわされる。これによって、各項目の相対的な大きさあるいは、資産、負債および純資産の構成内容を概観することができる。この構成比率分析は、企業間比較において、とりわけ有用な分析である。規模の異なる企業同士を実数のみで比較することはほとんど意味を持たないが、百分率という共通尺度を用いることによって、規模の大小という比較を阻害する要因を排除できるようになるからである。

[第2問]

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オ	ノ	タ	セ	ネ	ソ	ウ	キ	ハ	チ

11	12	13
ス	ニ	へ

[第3問]

- A 百万円 (百万円未満を切り捨て)
- B 百万円 (同 上)
- C 百万円 (同 上)
- D 百万円 (同 上)
- 労働装備率 百万円 (同 上)

〔第4問〕

- 問1 ¥ (円未満を切り捨て)
 問2 ¥ (同 上)
 問3 % (小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)
 問4 ¥ (円未満を切り捨て)

〔第5問〕

問1

- A 総資本事業利益率 % (小数点第3位を4捨5入し、第2位まで記入)
 B 経営資本営業利益率 % (同 上)
 C 自己資本当期純利益率 % (同 上)
 D 完成工事高キャッシュ・フロー率 % (同 上)
 E 未成工事収支比率 % (同 上)
 F 必要運転資金月商倍率 月 (同 上)
 G 有利子負債月商倍率 月 (同 上)
 H 純支払利息比率 % (同 上)
 I 支払勘定回転率 回 (同 上)
 J 付加価値率 % (同 上)

問2

(1)

1	2	3	4	5
キ	ソ	カ	サ	セ

(2)

6	7	8	9	10
コ	シ	ウ	ナ	ハ